



アイヌの伝統と近代開拓による^さる^がわ 沙流川流域の文化的景観

No.01-01

所在地：北海道平取町
面積：40,917.5ha

選定年月日：平成19年7月26日、平成28年3月1日追加、平成30年10月15日追加、令和8年2月17日追加
選定基準：二(一)(二)(三)(五)(六)(七)(八))

(1) 概要

「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」は、北海道沙流郡平取町(びらとりちょう)に所在し、現在に至るまでアイヌ文化の諸要素をとどめながら、開拓期以降の農林業に伴う土地利用がその上に展開することによって多文化の重層としての様相を示した極めて貴重な文化的景観です。

昨今の社会経済的变化による大規模な商業的植林、農地開発、二風谷(にぶたに)ダム開発がこの地の環境を大きく変化させ、アイヌ文化の継承や河川生態系の回復などの課題も多く、その脆弱な景観の本質的価値は危機に瀕していると考えられます。

選定対象区域は、文化的景観保存活用計画を通じて保存管理、整備活用、運営体制に関する基本方針が定められた40,917.5haです。



近代の開拓を伝える芽生地区



チプサンケと呼ばれる舟おろしの儀式。文化や信仰とそれが執り行われる環境が継承されている

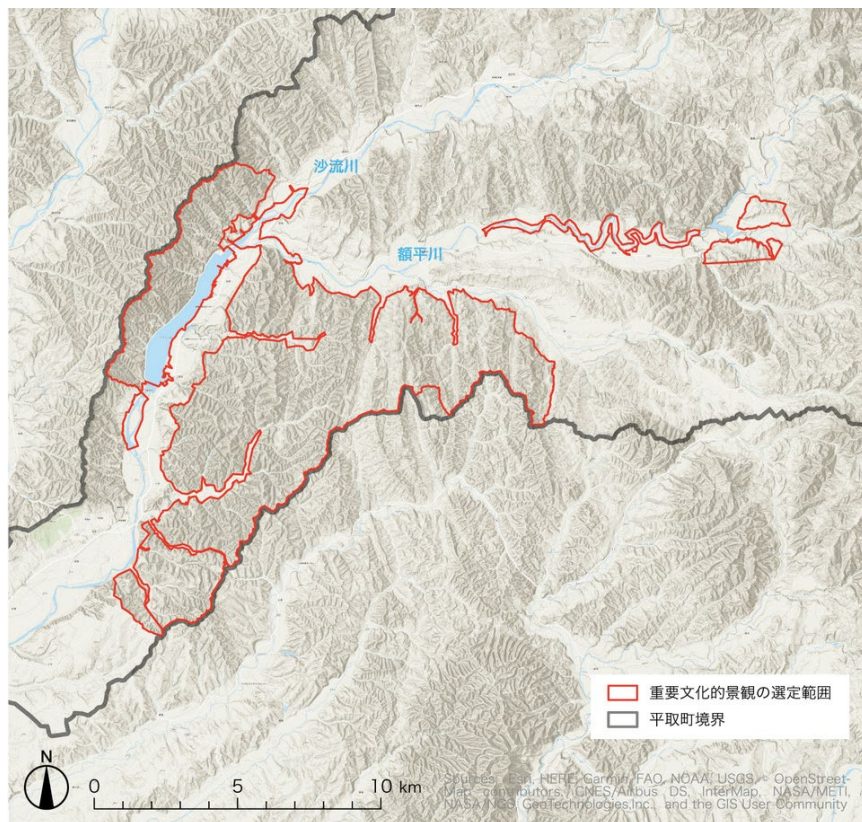


博物館の敷地内に復元された、アイヌの住居であるチセ



伝統的な衣服の原料となるオヒョウの樹皮の採取

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：42件
- 国指定等文化財：幌尻岳(ポロシリ)・オキクルミのチャシ及びムイノカ（名勝）、北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション(重要有形民俗文化財)、アイヌ古式舞踊(重要無形民俗文化財)、北海道大学文学部二風谷研究室(旧マンロー邸) (登録有形文化財(建造物))

（３）選定による効果

平取町は平成17年度から文化的景観の取り組みをはじめ、アイヌの伝統と近代開拓の要素がある地域の景観を大事にしようとする方針を打ち出してきました。アイヌ文化に関する環境整備の各種事業についても長年の積み重ねと実績があり、これらを通して、アイヌの人々の森林や河川との関わりを現地でも伝えてきました。

文化的景観を横糸として、町内の各種事業を縦糸として織り合わせ、地域の景観をつくっていこうという認識が、関係者に広がりつつあります。関係機関や民間団体とも連携を強めています。



地域住民も参加して行われた
オヒョウニレの植樹



アイヌ伝承地のひとつである
オブシブリの観察会

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 平取町文化的景観保存計画書（平成30年1月、平取町）
- 平取町景観計画（平成19年4月、平取町）
- ホームページ

<https://www.town.biratori.hokkaido.jp/material/files/group/19/74213527.pdf>

(5) 活用事例

事例01-01 ①

地域の住民・団体が、現地で文化を伝承する見学会

●行政と住民等の協働による取り組み

毎年1回、町の広報で公募した参加者とともに、町内の文化的景観を見学する取り組みを行っています。毎回、テーマに合わせて、町内の郷土史研究家や林業従事者などを講師に招き、現地で地域の歴史や文化に根差した暮らしを体験的に学ぶ機会としています。地域の平取町二風谷アイヌ語教室との共催事業として実施し、アイヌ語地名や伝承地などを学習する機会ともしています。

令和4年度は「額平川流域の文化的景観をみる」をテーマとし、バスの車中からアイヌ語地名や特徴的な地形・樹木を見学しました。その過程で、参加者から過去の景観についての話がでるなど、地域史を深く知る場ともなりました。また、地域の古老に木遣歌（林業を行う際の仕事歌）を披露してもらい、地域に伝わる生業の一端を知ることができました。

令和5年度は「景観からイギリスと平取の関わりを知ろう」ということで、地域団体「イザベラ・バードの道を辿る会」と連携し事業を実施しました。英国人であるイザベラ・バードが歩いたとされる道を辿り、当時の景観を想像しながら今の景観を見ていきました。

地域住民、地域団体と連携を深めながら、今後も続けていきたいと思っております。



現地見学会で景観を観察する

イザベラ・バードの道を辿る会 事務局長の声

町民に向けて、バス移動しながらバードに関する解説を行う一方で、地域の古老から重要な証言、お話を聞かせていただき、新たな気づきを得る貴重な機会となりました。

団体等情報：

イザベラ・バードの道を辿る会
<https://isabellabird-hokkaido.sdgs.asia/>



林業に携わってきた古老が、施業していた山が目の前に広がる自宅で、木遣歌を披露



サイン前で地域団体による解説

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す開発

⑤ 資源の確保と運用

⑥ 人づくり

(5) 活用事例

事例01-01 ②

地域が先生！小学校6年間を通して学ぶアイヌと地域の文化

●行政と住民等の協働による取り組み

町内の小学校では、全校児童を対象にした、アイヌ文化を伝承・発信する総合学習が1年を通して計画的に行われています。子どもたちは、地域の人たちを先生として、学び取っています。

特に、平取町立二風谷小学校は、アイヌ語・アイヌ文化の学習に意欲的に取り組んでいます。学習発表会ではアイヌ語に訳した校歌を歌い、アイヌ伝承の劇を、地域の方々の前で披露しました。沙流川流域に広がる景観の中で育まれた物語を地域の子もたちが、劇として演じることはとても素晴らしいことです。

また、小学校の社会科の授業では、平取町立二風谷アイヌ文化博物館が所有する昔の農機具を使って、米作りの過程を体験しました。次世代を担う子どもたちが昔の道具を使いながら学習することで、地域の暮らしの移り変わり、生業による景観の移り変わりを考えるきっかけとなることを期待しています。

小学校担任の先生の声

豊かな地域の教育力を背景に、学校でも、子どもたちが誇りを持てるアイヌ文化学習・郷土学習の創造に努めています。



学習発表会でのアイヌ伝承の劇



校歌をアイヌ語に訳して合唱



アイヌ文化学習（遊びの体験）



足踏み脱穀機を使った体験学習

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり